

2017年7月18日

## 長江新城は武漢主要エリアの東北部に立地する

昨日、武漢市政府は記者会見を行い武漢東北部に長江新城を造ると発表した。長江新城は雄安新区を参考とし、新発展の理念を実行する模範都市であり、完成すれば、武漢は「四鎮」として新たに形成されるところになる。

長江新城は3期に分け建設する。初期の建設エリアは谿家砦から武湖までのエリアで、具体的には、東は武湖ポンプステーション河まで、南は長江北岸まで、西は滌水河、府河まで、南西は張公堤路まで、北は江北鉄道までの約30平方キロメートルである。中期の発展エリアは100平方キロメートルに及び遠隔制御エリアは500平方キロメートルである。

選出されたこの場所は地理的に恵まれており、交通が便利で、主要区に繋がり、長江の主軸を貫き、東湖ハイテク区、武漢経済技術開発区の隣に位置する。自然環境に恵まれ、自然環境保全力が高く、地質災害と地質不良による発育への影響がなく、建設開発に適合している。

2017年7月20日

## 武漢で初めての地下鉄の小町が年内に工事を始める

昨日の午後、武漢地下鉄集団と中央企業の中国保利集団傘下の保利(武漢)不動産開発会社は戦略提携協議書に調印し、黄家湖地下鉄小町について初歩的な合意に達した。

黄家湖地下鉄小町は武漢の南第三環状線、南第四環状線の間位置し、西は黄家湖に隣接し、東は黄家湖大道、南は軍運村、北は武漢学院まで、南北両側にそれぞれ地下鉄8号線の2つの駅を設ける。

武漢地下鉄集団の関係責任者の紹介によると、地下鉄駅をめぐって「地下鉄新町」を造り、文化、教育、医療などの生活関連施設を造ると同時に、適度に産業開発を行い、住民のために就業チャンスを提供し、最終的に人の住みやすく、特色と活力に溢れる生活エリアを造る。

2014年、武漢は5つの新エリアで集中的に黄陂武湖、新洲金台、江夏黄家湖、江夏青龍山、东西湖走馬嶺、蔡甸柏林の6つの地下鉄小町を造り、総面積は1.3万ムー(1,287平方キロメートル)に及ぶ。黄家湖地下鉄小町は主要区に一番近く、年内に工事を始める予定で、武漢で建設工事を始める初めての地下鉄小町になる。